

主催：総合病院精神科連絡協議会

精神医学講座担当者会議

全国自治体病院協議会

日本総合病院精神医学会 医療政策委員会

総合病院・大学病院の精神科について考えるシンポジウム2025

【 総合病院・大学病院精神科の持続可能性を考える 】

日時：2025年 9月13日（土）13:00-17:00

会場：オフィス東京 2階 会議室L（東京都中央区京橋1-6-8 コルマ京橋ビル）

アクセス <https://www.officetokyo.net/access/>

参加費：無料

開催方法：ハイブリッド開催（現地50名＋ウェビナー）

専門医更新単位：総合病院精神医学会 10単位 / 精神神経学会 B群3単位

総合病院精神科（GHP）は精神科救急、コンサルテーションリエゾンなどの精神科治療だけでなく、医師をはじめ看護等メディカルスタッフの教育や、医療安全や臨床倫理等総合病院全体の機能向上にも寄与していると考えられる。一方で、GHPはスタッフの確保や病院経営の観点から、縮小化や閉鎖の危機にある機関が増加しており、持続可能性が大きな課題となっている。

本シンポジウムでは、持続可能性に欠かすことができない人材確保という点でGHPがおかれている現状について情報共有し、更に臨床・教育などの視点からGHPの精神科臨床以外のニーズについてお話いただいたうえで、GHPの持続可能性について参加者とともに考える機会にしたい。



参加登録はこちらから → <https://pro.form-mailer.jp/fms/58cc717a335362>

連絡先：日本総合病院精神医学会事務局

E-mail : jsghp@mth.biglobe.ne.jp

《プログラム》

開会のあいさつ

第1部：総合病院精神科の人材確保の現状 (13:05～14:35)

司会：和田 健先生 (地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 精神科主任部長)

1. 総合病院精神科の施設・人員の状況について
総合病院精神科基礎調査2024調査結果より
演者：船山道隆先生 (足利赤十字病院 神経精神科部長)
2. 大学病院精神科の立場から
大学病院精神科のスタッフ確保、総合病院精神科への人員派遣 (専攻医、精神科医)、
教育の場としての総合病院精神科の役割
演者：古郡規雄先生 (獨協医科大学 精神神経医学講座 主任教授)
3. 総合病院精神科の立場から
医師、メディカルスタッフ確保の状況、働き方改革の影響、人材確保についての方策

演者①：甲斐利弘先生 (大阪市立総合医療センター 精神神経科部長)
自施設の初期臨床研修医を中心に精神科医師を確保する
演者②：森崎洋平先生 (島根県立中央病院 精神神経科部長)
ワークシェアによる女性医師にも働きやすい職場環境

休憩 15分 (14:35～14:50)

第2部：総合病院精神科のニーズ (14:50～16:30)

司会：佐竹直子先生 (国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 精神系統括診療部門長)

4. 病院長からみた総合病院における精神科の必要性
演者：岡 俊明先生 (総合病院 聖隷浜松病院院長・日本病院会副会長)
5. 教育の場としての総合病院精神科の必要性 看護教育の視点から
演者：福田紀子先生 (慶應義塾大学看護医療学部 教授)
6. 総合病院全体の機能upのための精神科の機能 (医療安全、臨床倫理等)
演者：藤澤大介先生 (国立がん研究センターがん対策研究所 がん医療支援部部長)

第3部：総合討論 (16:30～16:55)

司会：和田 健先生、佐竹直子先生

閉会のあいさつ